

## 平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

|     |           |      |       |          |       |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|
| 学校名 | 福山市立松永中学校 | 校長氏名 | 宇根 一成 | 生徒指導主事氏名 | 土橋 一美 |
|-----|-----------|------|-------|----------|-------|

## 取組事例名 『体育大会』

## 取組のねらい『キーワード：輝け、この瞬間』

・体育大会は集団での活動を通して、望ましい人間関係をつくり、自主的・自発的な活動を実践する態度を育てるなど、大きな教育的意義をもっている。その取組を通して集団への所属感を高めていくことをねらいとする。また、生徒も体育大会に掛ける意気込みは強く、その達成感やその瞬間はだれの記憶にも残り、感動を共有できるものとする。

## 取組の具体的内容『キーワード：リーダーシップ』

## ・学級の団結力を示す集団演技（行進）

一年生にとっては、5月に行われる体育大会は、入学してすぐの行事ということもあり、特に、学校に適応できるようにしていく必要がある時期である。学校への帰属意識や連帯感を高めるためにも、体育大会を通してこの学校に入ってよかったという気持ちを味あわせる感動的な体験としていきたい。そのため、学級の中での人間関係づくりの活動と関連付けながら、行進についての話し合い活動をしていく。生徒の中には、なぜ行進が必要なのか、楽しくないなどの消極的な意見が必ずでてくる。そこで、学級リーダーが3年生の行進を見学することで、その団結力と意気込みを感じ、その後の行進練習に対する姿勢が変わってくる。



## ・縦割りでの練習

各色別チームの3年生からリーダーを置き、リーダーを中心に行進の練習計画、指導計画を立て進めていく。また、部活動の行進・リレーを取り入れ、キャプテンを中心とした練習計画を立て、後輩の指導に当たる。ユニフォームを着用し、部活の特色を出してもよい行進になるので、様々なパフォーマンスは、毎年工夫がみられる。この行進は保護者や地域の方々には好評で、日ごろの成果を発揮できる場となり、楽しみにされている。



その後、部活動対抗リレーをすることで、部活動の団結力は育まれる。

## ・3年生によるソーラン節

リーダー学年として引っ張ってきた体育大会の最大の山場である。自主的に練習を重ね、その結果の発表の場であり、下級生に対しても「リーダーとしてのありよう」を示すものになる。



・太鼓部による演舞

今年度太鼓部を設立し、演舞をした。この発表は、敬老会や学区文化祭等の地域活動にボランティア参加するきっかけをつくることができた。



**取組の課題・創意工夫『キーワード：全員参加』**

- ・一人ひとりが活躍できる場として、運動の苦手な子に対してテークオーバーゾーンをどのように活用していくのかということを、話し合い活動の中で解決させる。リレー種目だけでなく、学年種目でも全員参加のための話し合いにつながった。
- ・教職員も行進することで、生徒に先生も一丸になって体育大会に臨んでいるという姿勢を見せる。

**取組の成果（効果）『キーワード：完全燃焼』**

- ・自分の役割を自覚し、やりきることで一人ひとりが達成感を味わった。
- ・3年生のリーダーシップにより、よいムードのなか取り組めた。
- ・クラスで工夫して練習することによって競技は上達すると同時に団結力も高まり、競争心も生まれた。

**今 後 の 展 開『キーワード：縦割り集団』**

- ・次年度、各学年が同じクラス数なら縦割りにしていく方向で進める。
- ・全員で応援できる体制づくりを考える。
- ・事後指導として、中学校生活のリーダーシップとは何かを考えさせ、日常の場面や学習発表会の取組へと継続したものにする。

**他校へのアドバイス『キーワード：共同体』**

- ・教師、生徒が同じ思いで体育大会に取り組む姿勢が大切である。
- ・行事を通しての成長を学校生活へ生かす取組が必要である。
- ・リーダーの育成がポイントである。